

平成 24 年度 地域懇談会

平成 25 年 2 月 24 日(日)

午前 10 時 00 分～11 時 45 分

健康文化センター1 階 多目的室

1. 「参加と協働の約束に基づく制度施行規則」第 27 条による課題

大口町のコミュニティバスを考える

2. 対象地域

南地域(秋田・豊田・大屋敷)

3. 懇談会参加者(10 名、敬称略)

秋田区 山田泰晴

秋田区 佐竹重夫

豊田区 宮川 勉

豊田区 大森英男

大屋敷区 野田捨光

大屋敷区 野田秋光

議会議員 岡 孝夫

バスサポ隊 水谷由美

バスサポ隊 和田由美

町 長 森 進

4. 懇談会進行

地域振興課長 平岡寿弘

5. 司会進行

地域協働部長 杉本勝広

6. 会議記録

地域振興課長補佐 佐藤幹広

地域協働部長（杉本勝広） 改めまして、皆さんおはようございます。皆様方には、大変お寒い中、またお忙しい中地域懇談会にご参集いただき、誠にありがとうございます。ただいまより開催させていただきます。その前に、携帯電話をお持ちの方はご配慮いただけると幸いに存じます。

私は、本日の司会を務めます地域協働部長の杉本勝広です。よろしくお願いします。この地域懇談会は、まちづくり基本条例の規定にもとづき、町長が議会、自治組織、その他さまざまなまちづくりの担い手とともに、大口町のまちづくりについて意見交換をする場として開催するものです。本年度は「大口町のコミュニティバスを考える」と題して、今後のバス事業の方向性について、皆様からご意見をいただく機会としてまいりたいと考えております。

初めに、地域振興課佐藤課長補佐からコミュニティバスについて概要と検討課題の説明を、引き続き、大口町コミュニティバスサポート隊の方から活動報告を、それぞれパワーポイントを利用して説明させていただきます。それではよろしくお願いします。

＜スライドに基づき説明＞

地域協働部長（杉本勝広） それでは意見交換会に入りたいと思います。パネラーの皆さんにおかれましては、前の席の方へ移動をお願いいたします。

＜席を移動＞

地域協働部長（杉本勝広） それでは、パネラーの皆様の紹介をさせていただきます。

＜参加者を紹介＞

地域協働部長（杉本勝広） 本日の懇談会は地域振興課長の平岡を進行役に、座談会方式で意見交換会を進めさせていただきますので、よろしくお願いします。

地域振興課長（平岡寿弘） それでは、よろしくお願いします。

早速ですが、傍聴者の方にも参加をいただいております。

コミュニティバスに乗ったことがある方、挙手をお願いします。

＜挙手あり＞

地域振興課長（平岡寿弘） ありがとうございます。今日は、乗ったことがある、乗ったことがないではなくて、この10年を振り返りつつ、住民の皆さんと一体となった取り組みで、今後のバス事業の展開、継続して活用していきたいということですので、事業を大口町の財として今後も皆さんと活用していきたいと形で、そのためのアイデアなりご意見を賜りたいと考えていますので、よろしくお願いします。

まず、参加者の皆さんから事前にアイデアを書いていただいています。その辺りからスタートしたいと思います。ちょっと字が小さくて見づらい部分もあるかと思いますが、会員募集、町民が支えるコミュニティバス会員、全町民が一度はバスに乘車する、バス停以外でも手を上げた場合に乗車できる、ショッピングセンターを巡回するルート、会社との連携、利用しやすいバス停の設置、改めて需要予測を、フリー乗降、利便性だけではない付加価値を、一日乗車券の販売の仕方、という形でそれぞれご提案いただいています。

先ほど挙手もいただきましたけど、「住民が一度はバスに乗車する環境づくりが必要である」と書かれた佐竹さん、もう少し掘り下げてお話しいただけたらと思うんですけど、どうでしょうか。

秋田区（佐竹重夫） 環境づくりをするに当たっては、町並びに役場職員、また関係者、教育委員会、さらにはNPO、議会議員等が率先して乗客になっていただくことから始めていただかない

といけない。また、各職場ごとのノーカーデーも必要だと思うので、その辺ができれば相当量の利用が増えると思います。月に1回程度実施できれば、多くの効果があるんじゃないかと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） それぞれが構成員になってやっていこうという話だと思います。それに関連するのかもしれませんが、会員募集、大口町民が支えるコミュニティバス会員というキーワードを山田さんに書いていただいています、この辺りについて詳しくお願いします。

秋田区（山田泰晴） 秋田区会の皆様のご意見として、広域の活動として日本赤十字社、赤い羽根共同募金というものが広域の部分で行われているわけですが、我々は大口町地域限定の募金活動として、大口町民が支えるコミュニティバス会員というものを設定し、期間を限定して、なんとか大口町議会で検討していただければいいんじゃないかと考えています。

大口町は、平成25年でだいたい7800世帯あります。1世帯当たり1口500円以上という募金活動をする、7,800世帯掛ける500円で390万円以上のお金が集まります。それを活用できる資源にするという考え方で、町民の力を借りようというわけです。

地域振興課長（平岡寿弘） 具体的な試算もいただきました。キーワードとして住民目線、住民参加、というような言葉が出てきています。この辺りについて、住民活動として活動してみえるバスサポの水谷さん、どうですか。

バスサポ隊（水谷由美） 住民目線で活動していただければバスサポ隊も助かりますし、会員に入っていただければもっと助かります。よろしくお願いします。

地域振興課長（平岡寿弘） 会員募集はバスサポ隊もやっているということですが、山田さんから、より具体的な制度も必要だというようなご提案だと思っています。アイデアから一步踏み込んでそれを具現化していこうという発言だと思っています。

他の皆さん、住民の取り組み、これは全町的なものもありますが地区単位の取り組みもできるのかと思いますが、宮川さんはどう思われますか。

豊田区（宮川 勉） 今日の意見交換会、非常に凝ったテーマで話されています。私自身も町民参加の第一歩に入れたかと思っています。

今日、豊田区の区会議員がほとんど来ていますが、こういった話を昨日の区会でしました。非常にいろんなアイデアが出ました。その中で、非常に簡単なことですが、バス停以外でバスに乗ろうとして手を上げた場合に、バスが止まってくれたら乗りやすいのではないかと、本当にちょっとしたアイデアなんです、上段に構えるよりも、本当にちょっとしたアイデアなんです、手を上げたときに止まっただけだと、もちろん交通事情もあるかと思いますが、そういう対応が少しでもできれば非常に利用しやすくなると思いました。

私この件に関して資料に基づいて考えたものがありましたが、非常に大上段になってしまったので、今のような目線を低くしたアイデアがいいと思いました。

地域振興課長（平岡寿弘） 今の話の中で、やはり個人としてもそうですけれども、区会等でもお話しいただいているということ、非常にありがたいことだと思います。単に委員さんだけでなく、やはりここに参加するに当たって、区会の方でも話をしていただいているのはありがたいことだと思います。この辺り、アイデアとは少し離れますが、キーワードとして町民、地域で考えていこうよというようなことかと思うんですが、いろんなレベルがあると思うが、目線、やりやすいことからやっていこうという話もありました。区という話も少し出たものですから、大

森さんどうですか。地域でこういうことを考える機会というか、そういうことは考えられませんか。

豊田区(大森英男) 地域で即効性のある施策を考えるというのはなかなか難しいと思うんです。ただ地道に、普段からそういった意見を言いながら、住民の意識を高めていくことは非常に大事だと思います。

町がイベントをやる、そういうところで巡回バスを有効活用してピンポイントで、例えばシャトルバスみたいにして、高齢者に利便性があるように運び込む方法もあるだろうし、いろんな場面に対応していろいろ考えていくことが大事だと思います。今日やったから明日すぐ良くなるというのはなかなか難しいものですから、ステップ・バイ・ステップですね、やはり一番初めにバス事業を始めたときのコンセプト、要は公共交通がなくなったからバスを出したと、まずはこれを絶えず足元において考えるのが大事だと思います。

地域振興課長(平岡寿弘) 原点というか、その辺りのことも触れていただきましたけれども、バス事業の振り返りも含めて、町長さん、事業への想いを伝えていただけますか。

町長(森 進) 紹介にもあったんですが、大口町地内で二つの名鉄バス路線が以前は走っていました。一つは名鉄犬山線の江南駅から上飯田線の楽田までのルート、もう一つは上小口のバローのところから名古屋の浄心までの二つのバス路線が大口町内にあったんです。それが、なかなか利用が伸びないということで、江南駅から楽田までのルートは役場までのルートへ変更になり、その後休止、そして廃止ということで、二つの路線がなくなった。先ほど平成3年という話があったわけですが、それ以降、大口町地内には公共交通機関がないということで、あまりいい言い方ではなかったんですが、陸の孤島というようなことを外から言われた時期も一時ありまして、そういう中で、町内にバスを走らせるという検討をしてきた経過があります。その時には、せっかくバスを走らせるんだから、あれもこれもと非常にバスに多くの期待をして、いろいろ検討した経過があります。それはある部分、車両の大型化、くまなく自分の生活の身近なところに車を止めてほしい、というのは相反する話であって、その辺りが非常に難しく、平成15年に今の巡回バスがスタートしたときには、福祉の観点というよりも、むしろ陸の孤島と言われ続けてきた大口町に、公共交通機関としての足を確保する、これが目的で巡回バスがスタートしたわけです。

そのときには、今ここで議論していただけている、町が事業主体となってバス運行をするのではなくて、民間へ移行していこうということも目的の一つとして、検討して今まで来ているんですが、ここ10年が経過する中で、利用者が12万人、そして町内の民間企業との協賛、さらにはバスの広告、そういう形でいろいろと大口町の今までの行政施策としては取り組んできたことがなかったような、職員が自ら営業、セールスをして、町内企業との連携もできるようになりましたし、そういうことを聞く中で、少しでも行政と企業が連携していくというような一つのモデルにもなったのではないかと思います。これが今後、一つの目的として残っている民への移行については、どういう団体あるいは組織が好ましいのかという明確なものがあるわけではなく、今話に出ていました地域、そういうものが運行主体になってもいいでしょうし、企業との共同体みたいなものでもいいでしょうし、行政も含んだ第三セクターみたいなものでもいいと思うんですが、先ほども経費の関係を見ていただきましたが、年間5,600万円からの委託料を町が支出していまして、そのうち、純粋に町の負担が3,300万から3,400万円になっている。これだけの状況を見て、我々の知識、能力を含めて、もう限界に来ている中で、果たしてどういう団体が受け

皿になっていただけるのか、また、それを町の財として町民の皆さんが会員になっていただいて、それでバスを存続させていくことができれば、これも素晴らしい話ではないかと思っています。

一つだけ気になるのが、皆さんの生活を考えていただきますと、たぶん1世帯に2台あるいは3台の自家用車をお持ちだと思います。非常に生活するにはこれ以上便利な、自分の時間に合わせた生活のパターンはないんじゃないかと思っています。そういう中で、ダイヤに沿って走るバスの利用、こういうところを考えたときに、必ず今よりも便利になるとは非常に想像しがたい。ですから、公共交通機関のダイヤに合わせた我々の行事の設定もそうですし、皆さんの個々人の生活も、そういうものに合わせていくという感覚を変えないと、これだけ便利な、自分に都合のいい、非常に過ごしやすい環境の状況を、公共交通機関を整備し、運行して維持していくことは、相反する部分があって難しい。むしろ自分の生活が不便になる。そういうようなこともある程度意識の中であって、このバス事業を考えていかなきゃならないと思っていますので、今日皆さんからいろいろな話を聞けるのを楽しみにしてこの席にいますので、いろいろな意見が聞けたらと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） 今町長から事業に対する考え方をお伝えしたところでありますけれども、やはりみんなで支えていくという部分が必要なのかと思います。地域で支えていこうという話からスタートしました。まだいろんなアイデアをお聞きすべき点もあるかと思いますが、組織の話になりましたので、冒頭、地域で考えようという話、今町長からは、町は民営化を念頭にこの事業を進めてきたがまだそこには至っていない。そういう部分のあり方、町民が支えていくということを含めて、その辺りを掘り下げてみたいと思います。

事前にいただいているのは、住民組織、ボランティアというところを活用したらどうだということで、野田さんからいただいています。その辺りを掘り下げてお話いただけますでしょうか。

大屋敷区（野田捨光） 私は、会社との連携というふうに書いたんですけど、その中で、確かにバスもこれで10年経ちますけど、今後どうやって人を増やしていくかという課題というのがやっぱり一番にあると思うんです。やっぱり、バスサポ隊の皆さんの活躍は相当大変だと思います。ですから、皆さん一人一人がまず利用してみるということが一番大事だと思います。そこからだんだん発展していった中で、企業との連携、そして、会社巡りとか、子どもさんがみえる若いお母さんとかの活用というのも重要だと思います。そういうことによって、昼間の時間も有効に使える手段が何か見えてくるんじゃないかと考えるわけです。ですから、まず一人一人がコミュニティバスに乗ってみて、それに感じたものをアンケートしてみて、利用できるものがあれば、何か関連した行事ごとで利用するというような形で持っていくというのがいいんじゃないかと思うんですけど。

地域振興課長（平岡寿弘） やはり地域であり、町全体というのものもあるんですが、まずは一人一人の意識というところをいただいたと思っています。車の状況については町長も言いましたように、皆さんお車をお持ちですので、なかなかそれをどうこうするのは難しいと思います。私どもとしては、大口町の財として、皆でそれを活用していけたらいいと思っています。

そういうアイデアをバスサポ隊の方で取り組んでいただいていると思いますが、実際一人一人の意識を高めていくということについて、和田さん、どうでしょうか。利便性だけではない付加価値という表現をされていますけれども、その辺りを少しお話しいただきたいと思っています。

バスサポ隊（和田由美） 結構、バスに乗ったことがある方がいらっしゃったんですが、ちょっと聞いてみたいんですけど、乗りたいと思って乗ったという方はいらっしゃいますか。

<挙手あり>

素晴らしい。ありがとうございます。私たちはそういうところを工夫したいと思っているんです。付加価値というところとちょっとおこがましいのかもしれませんが、例えば、お子さんの絵等をバスに貼って、「うちの子の絵があるから乗ってみようかな」とか。お子さんはやっぱり乗り物が好きだと思うんです。小さい時から乗りたいと思うようなマイバスというのを私たちスローガンに上げているんですが、自分たちのまちの楽しい乗り物というか、利便性だけで、便利だから使うんじゃないくて、乗りたいバス、楽しいバスというような、ちょっとしたデコレーションもそういう形で始めたんですけれども、何かに使うだけじゃなくて、乗ってみたいなという価値を付けていけたら、昼間のバス利用も少しずつ増えるんじゃないかと思っています。小さい時からバスを愛していただくということで、年を取ってからもバスを愛していただいて乗っていただけるような、そういった活動をしていけたらいいなと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） ソフト面での充実、そういうところを重ねていったらどうだろうかということだと思います。

先に2回地域懇談会をやっているんですが、やっぱりそういう部分の声があります。町全体でやる部分もありますが、それぞれ地区で何かできることはないか、それぞれ提案をいただいたところもあります。ちょっとアイデアから離れていくかも分かりませんが、野田さん、地区で何かできること、バス停の位置なんかも地区でやれることじゃないのとか、ベンチなんかも地区でやれることなんじゃないの、というような声もいただいているんですが、ここからはアイデアを含めて、地区でやっていけることがあるのかどうか、別に押しつけるわけではないんですが、こういうことならやれるというようなことがあればお願いします。

大屋敷区（野田秋光） 地域でやれることと言えば、まだバスの乗客があまり多くないということですので、コミュニティバスの認知度のアップとして、PRとか、チラシとか、あるいはアンケートぐらいは地域でやれると思います。

せっかく地域の方にバス停があるものですから、地域でバス停の清掃なり、乗りやすいようにしていったらいいんじゃないかと思っています。ただ、南地区の一部では、街路樹に囲まれて、道路標識なのかバス停なのか分からないところもあるので、そういうところは改善しながら、乗りやすいバス停にしていければ、地域の住民の方にコミュニティバスのアピールができるんじゃないかと、乗りやすくなれば利用も多くなるんじゃないかと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） やれる部分の話というか、やれることからやっていこうと、そういう中で地区も協力いただけるという話だと思います。住民の方の声を基本にお聞きしているんですが、岡議員は会社の立場もありますので、企業としての立場、直接は関係ないかもしれませんが、住民の方がこういう形の中で利用を高めていこうと、私どもは住民だけでなく、まちづくりの担い手というのは企業の方も含めてまちづくり担い手ということですので、企業の感覚でお話しいただければありがたいです。

議会議員（岡 孝夫） 私、まだサラリーマンもやっていまして、私の会社でいくと、社員はマイカーで通勤されている方が一番多いんですが、あとは公共交通機関ということで、布袋駅から乗られる方、あるいは小牧、一宮からもバスを出していまして、布袋からだ朝は3便だったと

思います。そういう中で、町との連携ということで、実は町の方からもこういうことができないかということで相談があった内容だと思うんですか、なかなか難しい所があって、自動車の部品を作っていることがあって、本当にお客様の時間に合わせモノを作ることが第一線なんです。そのためには何でもやるぞ、みたいな部分があって、そういう中で、まだ実現していないのではないかという気が、私は個人的にはしています。

地域振興課長（平岡寿弘） やはり従業員の足というのは、企業にとって非常に大事だということですね。大口町は、コミュニティバスは走っていますけれども、鉄道駅からなってくると、そういうところを含めて企業さんは、自動車通勤なり、社バスを走らせているというようなことですね。その辺りもう少し、従業員の輸送というキーワードで少しお願いします。

議会議員（岡 孝夫） 先ほども申し上げましたけど、ジャスト・イン・タイムという言葉聞いたことはありますでしょうか。お客さんに、何時に、どれだけを、絶対に納めなきゃいかんというのがあるんです。その中で、駅からバスを出しているわけなんですけど、名鉄が遅れるとか、事故で電車が止まってしまったとか、そういうことがあるんです。そうなると、ものすごくあせって、なんとかして、生産している人を現場に少しでも早く連れてきたいというのがあって、ピストン輸送をやったり、いろいろなことをやるんです。そういう面では、生産第一でやっていますので、コラボということで伺っても、ちょっとまだそこまでたどり着いていないのが現実かと思えます。

地域振興課長（平岡寿弘） 企業におかれては企業の立場があると思います。町の交通手段としてはそういうことも整理していく、これはある意味、長期的なスパンで考えなければいけないことだと思っています。

少し話題が大きくなったものですから、もう一度話を戻します。

今日始まる前に、バスのことをあまり知らないんだよということを委員さんからお聞きしましたので、宮川さん、少し朝のお話を、これは会場の皆さんも同じかと思いますので、その辺りをお願いします。

豊田区（宮川 勉） 一番最初に、バスに乗られた方は手を上げてくださいということで、半分ぐらいの方が手を上げられたんですが、手を上げられなかった半分の方は、バスに乗ってというイメージがわからないんじゃないかと思うんですね。たぶんそういうことだと思います。先ほど NPOの方が言われたんですが、車に乗ることが楽しみだという子どものころの経験、実際に高校等へ行く時にバスとか電車に乗って行った経験のある人、仕事に行く時にバスに乗って行ったとか、私の場合は、高校までは違うんですが、その後は常に公共交通機関を使っていました。そのため 30 歳まで免許を持っていませんでした。あえて言うと、公共交通機関を使って通勤・通学していたので車の必要がなかったんです。私の家の周りにはコミュニティバスのバス停が 4 カ所あります。なんかの時には使えるかと思って、昨日の区会でその話もしました。

乗ってみたいと、利用してみたいという話が先ほどあったんですが、僕は乗りたかったんですね。どういうことかということ、バスから見える家の近くの様子、これが全然違うんですね。実は歩いているんですけれども、歩いても全然違うんです。学生時代に遠くに行っていましたので、その電車の中から見る景色は最高でした。

バスに乗って、ぐるっと回るコースがあるんですけれども、1 回自分の家から乗ってみようかと思っているんですけど、ただ、あまりにもあほらしいかなと思ってやめてはいるんですけど、

実はある時、東京の伯父が亡くなって、帰ってくるときに、鈍行で帰ってきました。乗り継ぎ、乗り継ぎで10時間ぐらいかかってきました。そういうのも楽しみ方だと思います。必ずしも利便性のいいところだけじゃなくて、意外と見えない部分が見えてくることもあるかなと思って、お話ししました。

地域振興課長（平岡寿弘） 今、目線が変わるという言葉が出ました。それと付加価値、先ほどバスサポ隊の和田さんが言われた利便性でない価値という部分もあるのかなと思います。

宮川さんのお話で、山田さんどうですか。

秋田区（山田泰晴） 私としては、秋田区の方で提案させていただきものを三つ目のキーワードとして話させていただきたいのですが、全町民が一度はバスに乗って、大口町民が支えるコミュニティバス会員の募集を行う、それは具体的にどういうことかという、先ほど390万円の会費が集まるという話をしたんですが、乗られる住民の方々が、ただ500円払うだけじゃなくて、赤い羽根や赤十字は出しっぱなしなんですけど、いずれは返ってくる。今回のものは即返ってこないといけない。どのようにするかというと、不燃物の方でカードを発行して、それにハンコをいただいて1口3,000円のキャッシュバックがある。まだ1回だけはできますね。それに合わせた形で今回の案を設定したんですが、でき得れば、地域で支えるためには会員一口500円以上ですが、バス乗車券を、5枚だと片道帰って来られないので6枚の券をください。そうすると、17%ぐらいの割引になります。100円のものが83円ですか。でも、6枚渡すと、先ほど客数が3万9,000人ですか、これが4万6,800人に増えるんです、それだけのサービスをしていただければ。さらに、今の活用方法として、量販店とか役場、病院、企業等と協定を結んでいただいて、お客さんの動員用のバスとして、朝と夜は忙しいから昼間、その券を使いやすくするために、企業によっては割引券を出したり、サービス券出したり、あるところは灯油券を出したり、商品券等ユーザーが使い勝手の良いものを提供する。さらには行政サービスとして、公共施設の無料券、多目的室も有料だと聞いていますから、こういうところを地区の人が使いたいというときに無料券とか、割引券の提供とか、一番込み合っているのがスポーツ施設、相当先に申し込んでも使えないんです。こういうものを使っていたところを優先的に、スポーツ施設、例えばグラウンド、テニス場、プール、いろいろなものがあると思います。そういうことを、バスを活用したサービスの提供を、三番目のキーワードとさせていただきます。

地域振興課長（平岡寿弘） かなり具体的に試算までいただいているんですが、いろんなインセンティブ、行政だけでなくショッピングセンターとの連携も必要かと思っています。その辺りの連携、先の懇談会でもあったわけなんですけど、インセンティブとしての無料券という話もあったわけですが、この辺りは整理していく必要があるのかと思います。施設利用の云々とか、リサイクルセンターのポイント制も出ましたが、それに絡めて、町長から考え方をお願いできたらと思います。

町長（森 進） 時代が大きく変わってきているというふうに自分は認識しています。一つの例としてリサイクルセンターのスタンプカードの話が出ましたが、焼却ごみをなんとか減らそう、江南丹羽への搬入量を減らそうとして、大口町の施策の中では異例中の異例の施策ではなかったかと思っています。要するに、現金を皆さんに渡すということです。ところが、私どもは、あくまでも焼却するごみの量を減らす、さらに分別を徹底する、そういうことを事業目的のための手法として利用していただくということで周知を図ってきたわけですが、何年か過ぎると、制

度の弊害が見えてくるんです。極端な話、年に何回も、計算上は年 1 回、せいぜい 2 回と試算してスタートしたが、5 回、6 回という実態が出てきたんです。これは制度が定着していく中でのことです。いろいろ話を聞いてみると、健康管理のために日参される。そういう利用をしてみえる。それが結果として 5 回、6 回になる。私どもはこの制度を、そういうことを考えてスタートしたわけではないものですから、一方で、そういうことに対する批判も出てくるんです。現金を還付するからそういうふうに、年に町が試算した以上に制度を活用して、現金の還付を受けるんだと。だったら現金還付をやめろという話になるんです。今まで本当にきちっと分別に協力してもらい、可燃ごみを減らすために協力してくれた大半の町民の皆さんにはどういうふうに、継続してもらうためにどういうふうに説明していかなきゃならないのかというのがあるんです。これと同じで、たぶんいろんな話が出ているバスの運行も、明らかに、こういうことを私が言うとおかしいのかもしれませんが、今の状態で年間 5,600 万円掛かっているんです。町としては、皆さんの税金から 3,300 万円から 3,400 万円投入しているんです。その他に県の補助金とか、企業に協力していただいている広告とか、企業が地元の財として使っていこうということで支援をしてもらっている支援金とか、そういうものを差し引いて町が 3,400 万円、このバスの運行のために毎年使っているんです。ですから、まず皆さんに認識していただくことを考えるなら、今それだけの負担をしてもらっていて、さらに町民の皆さんに負担をかけて、このバスを町の公共交通機関として残していかないといけない。そういうものにするために、たぶんバスサポート隊の皆さんは、ソフト面で知恵を絞っていただいているし、住民の皆さんへの PR 不足の部分をカバーしてもらっているんじゃないかと思っています。

先ほどから「町民のみんなが親しめる」というような話を、3 回の懇談会でもたびたび聞くんですが、もう一歩先の具体策というか、そういうものをお聞かせいただけると、やはり現実を踏まえた中で、一度チャレンジしてみようというふうになると思うんです。

ですから、サービスで何かを出したらどうだ、それも方法も一つだと思いますが、そういう話を聞くと昔を思い出します。各区長さんが町民体育祭に選手をお願いするのに、非常に苦労されたということが以前あった。区の方では、区会で出してもらうために何らかの手当をして出てもらったということもあった。大変な思いをして人を集めていただいたことも現実にあったわけですね。たぶん、今の流れはそうではないと私は思っています。モノでという流れは、今の時代とは違うんじゃないかと思えます。町民の皆さんが自分たちのものとして、というような話は、具体的な手法に、もしそういうものが背景にあるのであれば、ちょっと違うんじゃないかなと、私はそういう気がしています。そういうふうではなくて、何とか皆さんの知恵を借りて、そういうものになっていくようなヒントなり、きっかけなりが話として聞けるといいと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） かなり突っ込んだ話だったと思います。これを論議しないとイケないと思います。ただ、今日これをやったからといって、具体的な踏み込んだ策が出ているかというとそうではないと思いますけれど、こういうことをテーマにしてやっていく。先ほど委員さんが言われましたけれども、こういう機会に考える、それをしていかないとイケないと思います。話があちこち巡っていますが、結論を出すために開いているのではなくて、皆さんが何を考えておられるかをたくさんお聞きしたい。なかなか踏み込んでいくというのは、具体的なことは難しいかも知れませんが、きっかけづくりとして、皆さんの声を聞く機会にしたいということです。先ほどのインセンティブについても当然、課題として方向性を論議していかないとイケ

ないと思いますけれども、その辺りの部分を整理していく必要があると思っています。

いま一度、バスについての考え方というところで、振り返り含めて、今後こうあればという思いの部分について、簡単にお聞きしたいと思います。

水谷さんから順にお願いします。

バスサポ隊（水谷由美） 皆さん思いがいろいろあるので、ぜひバスサポ隊に来て、話をさせていただくと、バスサポ隊の中でも意見が出尽くしてこれ以上出ないという部分もありますので、少しずつでもいいので入っていただいて、月1回やっていますので、ぜひ参加してください。

バスサポ隊（和田由美） いろんな意見が出ていますが、ある程度運営していくとか、民営化していくとかを考えていくと大きな問題になってくると思います。効率化とか、民間企業のノウハウ、スキルを活用していくと、効率のいい運行の仕方も考えなきゃいけないし、ソフト面とか、バスの内容を変えていく、住民の方の意識を高めていく、いろんなやり方があるんですが、やはり一歩ずつだと思います。

それぞれできるがことあると思います。大きなことではないと思うんですが、皆さんこの会を開いていろいろアイデアが出てくるので、できることから少しずつ変えていく、いろいろないい所を出し合っていけると大きな財産になると思います。

議会議員（岡 孝夫） バス事業の目的、誰に乗ってもらいたいのかということをもっとはっきりさせる必要があると思っています。先ほどから、老年の人口が今後増えてくるということがグラフでもありましたし、また、車が1軒に2台あるという話もありました。それにプラスして、高齢の方より今の若いの方が免許を持っていると思うんです。そういうことから考えると、バスを必要とする人の人数はもっと下がってくると思います。そういう中で、徒歩、自転車、バイク、タクシー、バスという交通手段があって、そういう中でバスの乗客を増やしていこうというのは無理だろうと、あれもこれもじゃなくて、高齢者の方が買い物、病院に行くのに困っておられるということなら、それに特化したものもありかなと思います。毎日じゃなくても隔日でもいいから便数を増やすとか、いろんな見方があるんじゃないかと思いました。

大屋敷区（野田秋光） 今後は町民一体となって、それぞれいろんな問題が出たときには考え、助け合っていく方にもっていくほうがいいんじゃないかと思います。とりあえず話し合いが大事だと思います。やっぱりいろんな対応が出てきたときは、その場で話し合いながら、対応しながら一歩一歩進んでいった方がいいと思います。

大屋敷区（野田捨光） 今日まずバスに乗ってみる、そこから始めたらどうでしょうか。そして明日は、友だちを誘って乗ってみる。そうしていったら一人ずつ増えていって、だんだんと普及して乗るようになるんじゃないかと思いますので、皆さんご協力のほどよろしくお願いします。

豊田区（大森英男） 先ほど、大口町は陸の孤島だという話でしたけれども、車を持っている方にとっては、大口町ほど便利なところはないと思います。こんな小さな町に大きなショッピングセンターが四か所もある。昼間人口は1.5倍ですが、会社に勤めている方は拘束時間ですので、人は動きません。人が動くところというと、ショッピングセンター、病院、公共機関。ですから、先ほど提案しましたが、昼間のショッピングセンター、夕方の買い物の時間、そういったところの時間帯に人がどれだけ集まるかを分析して、そういう人を対象としてルート開拓したらどうかと思っています。

もう一つは、この事業は公共交通機関がなくなったというのがスタートですから、拠点の駅、

江南、柏森、布袋、こういったところの利便性を高める方策、具体的に案があるわけではありませんが、やっぱり一番大事だと思います。こちらからの利便性が上がるということは、他の町からこちらへ来る時も利便性が上がるということです。相互作用を含めて長期的に見れば、利用率は上がると思います。私もショッピングセンターへいくときは、すぐに車を使います。バスを使わない。ただ、こちらに住んでいる人が、たまにはバローに行きたいねという人もいるだろうし、向こうの人がたまにはヨシヅヤへ行きたいという人もたぶんおられると思います。そういうことも踏まえて、こういうところを回るような、要は、人が動くようなことを考えられたらどうかと思います。

豊田区（宮川 勉） 非常に自分勝手な話になるかもしれませんが、私のお袋は今から 8 年ぐらい前から自転車に乗られなくなりました。それから半年ぐらいは、押し車を押すのは恥ずかしいから嫌だと断ってしました。今は押し車を使っています。病院行く時、スーパーへ行くときは私が全部乗せて行っています。歩ける人はバス停まで行けます。歩けない高齢者は送っていかなくちゃいけないんです。現実はそのような状況です。だから、敢えて言うなら、健康のために高齢者の方はできるだけコミュニティバスの利用を本気で各家が勧めたらどうかと、そうしないと足腰が弱っていく一方です。そういうことも方法としてあるのかと思います。どこの家でも一緒だと思います。ちょっと視点を変えてみたらどうかと思います。いろんなアイデアがあると思うんですけども、できるだけ身近な部分から心掛けていったらどうかということを思っています。

秋田区（佐竹重夫） 全部言いつくされたようですので、一つ違う観点から申し上げます。

町のバスに年間 3,500 万円近く負担していると町長から話がありました。その中で、民間移行のことも言われました。これは、福祉事業としてのバスがありますね。あれの方策も、もう少しこういったらこうなるとか、このままいったらこうなるとか、福祉事業のバスに変更したらどうなるとか、そういうのを皆さんにアピールして、その選択として、やっぱり乗らないかなとか、バス代を 100 円を 200 円にするとか、1 軒当たり 500 円を会員として徴収するとか、いろんなアイデアが出てくると思うんです。それがないと、ああでもないこうでもないと終わってしまうと思います。説明がまずいかもしれませんが、そのように思います。

秋田区（山田泰晴） 伝右の方は月曜日と木曜日がごみの収集日で朝出しているんですが、ごみ収集車が音楽を流していますね。今回のコミュニティバスも大音量かなんか流していただいて、バスが来るあなと、住民の方が身近に感じられる状況をつくっていただいて、救急車や消防車はみんな分かりますが、バスが通るのは知らない。バス停がどこにあるかも知らない。乗ったこともない。有名無実のバスという部分があるように思いますので、いい音楽を流していただけるといいと思います。

それと、もう一つ言わせていただきたいのは、先ほど町長が、陸の孤島大口、田園地帯の田舎だと言われました。本当に不便なところなんです、先ほどの方は便利なところだと言われましたけど。ですが、丹羽郡の中から参議院議員がいらっしゃる。県会議員もいらっしゃる。なおかつ企業誘致では、どこよりもいち早く取り組んだ地域でもある。そこには大手企業がいっぱい入っていただいている。大口町は、世界から注目されている小さな小さな町です。だけど、住み良い町であるかどうかを住民の方一人一人が考えていくときに、何で車が 2 台もあるんだ。都市では若い人が車離れで困っているわけです、公共機関が便利すぎて。何で大口はそれがないんだ。もし便利であれば企業の方も自社のバスを出さなくても、公共のバスを出せるわけです。名鉄が引

き揚げたのは採算が合わないからです。合わないなら合うように工夫されたらどうですか。その工夫の一端が先ほど言った、まずは地域の方々と、量販店参加とか、公共の方で、4年間という計画のもとにまず区切りを作って、そこで全社員がノーカードとかいろいろ取り組んだ中で、何かいいヒントが出てくるんじゃないかと。やりもしないで、頭ごなしにやめるんじゃないくて、まずみんなで作ってみましょうよ。やらないと答えは出ないですよ。

地域振興課長（平岡寿弘） 今それぞれ思われることを述べていただきました。くぐりのような形なっていますが、先ほど野田さんから、今日バスに乗ろう、明日はもう一人誘って、ということをしていただきましたが、まさにそういうことかと思えます。

昨日、五条川の桜の間伐作業がありました。住民の方に参加していただき作業を進めました。やはり住民の方々に参加いただくことによって、その力というのはすごいと思いました。桜の診断をしていただきますと、かなり傷んでいます。そういうものを、みんながなんとかしようという思い、先ほど山田さんが言われた「やりましょうよ」という言葉、だめだ、だめだというだけじゃなくて、何かやりましょうという言葉につながると聞いていました。それぞれの方が声掛けしていただくことが大事かと思えます。

結論めいたものが出たわけではないですが、皆さんとこういう機会に話ができて、それを継続していくことが大事なのかと思っています。方向付けは出ていなくて申し訳ないんですが、お集まりいただいた方、試算までしていただいたところもありますので、きちんと整理してまいります。

地域懇談会については、会議録や提案を取りまとめて町のホームページにアップさせていただきますので、よろしくお願いします。

予定していた時間が来ましたので、この辺りで締めさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

地域協働部長（杉本勝広） 本日は長時間に渡り、ありがとうございました。最後になりますが、本日のテーマ、あるいは地域懇談会のあり方について、皆様からご意見をお聞きしたいと思っています。恐れ入りますが、本日受付でお渡ししたアンケートにご記入いただき、出口の回収箱へお願いできれば幸いに存じます。

これを持ちまして本日の地域懇談会を終了させていただきます。

お帰りの際は交通事故に気を付けてお帰りいただきますようお願い申し上げます。